

新宮山彦ぐるーぷ第2209回

## 行仙宿巡回整備

◇実施日 11月12日(土)

◇参加者 沖崎吉信、生熊敏男、松本吉殖、畑林秀味・清子、大江徳子、梶野照雄 7名

台風14、15号通過後の9月25日に、行仙宿の点検整備を行ったが、それ以後は雨や他の行事が続いていたため、約一ヶ月半ぶりに巡回整備を行った。

当初は13日に実施予定だったが、全国的に雨の予報だったため、急遽12日に即応部隊での実施となった。



登山口に着く

鉄塔から尾根を登る

奥駈道に到達

午前9時半、登山口に集合し出発。いつものように故川島前代表

の急逝現場で手を合わせ、モノレール終点から木杭やコンクリートブロックなどを背負い行仙宿へ向かう。

今回大江さんから竹ぼうき2本が寄贈され、女性陣が補給路の落ち葉を掃きながら登った。

モノレールの延長を計画しているので、今日の主な作業は現在のモノレール終点から行仙宿小屋迄のルートを調査することだ。21番鉄塔から補給路を離れ、梶野君が尾根を真つすぐ上に、沖崎が補給路のすぐ上を、生熊さんがその中間をそれぞれ歩いてみる。3人共始めて足を踏み入れる個所だ。



補給路のクリタケ

ストーブを掃除

薪を作る

この間には上の砦、中の砦、下の砦と3つの谷があり、それぞれ沢は60m位上方まで続いている。

実際に歩いてみると、ガレ場や大きな岩が行く手を塞ぎ、横切つてレールを伸ばすことはできそうになかった。無理にレールを通して落石や倒木のリスクが非常に高いように思われる。

尾根伝いに直登するルートは、行仙宿から北へ一登りした奥駈道にたどり着くので、小屋からは離れすぎている。

今日歩いてみた限りでは、21番鉄塔付近までが延長の限界のようだ。

3人が遅れて行仙宿に到着すると、女性陣は小屋とお堂の掃除を始めていた。松本君は屋根に登って煙突の防水処理作業中だった。この作業は午後も続けられた。

梶野君がエンジンブロワーを出してきて、小屋周りの落ち葉を吹き飛ばした。エンジンブロワーは風量が大きく、積もっていた落葉はみるみる無くなっていった。石垣横の落ち葉を吹き飛ばすと、きれいなキノコが出てきた。後で聞くとクリタケというキノコで、食用になるそうだ。



本日の参加者

水場は涸れていた

第2ベンチ上から

お昼前になり昼食を摂る。通過する登山者が数名いたが、小屋に入って休憩する人はいなかった。

ストーブ横の箱に薪を入れてあったが、一本も残っていない。外の薪棚の薪も少なくなっている。宿泊利用者が結構いたようだ。

午後は小屋南に積んである薪を薪棚に移したり、新しく薪造りもした。発電機が動いたので、久しぶりに掃除機で小屋内を清掃、ストーブの灰も全部出してきれいにした。

午後1時半に作業を終え、水場点検に向かう梶野君を残して下山した。

水場はほぼ涸れていて、溜まった落葉で水溜からは腐臭がしていたそうだ。明日13日は雨が降るようなので、水場の回復が期待できる。  
(記：沖崎)

#### 行動タイム

09：30 補給路登山口→10：35 行仙宿 13：40→14：20 補給路登山口